

古墳の主 探検マニュアル

それでは、いよいよ古墳の中を調べてみましょう。主の入られた棺や、部屋が見つかるかもしれません。コツは石を見つけることです。さあ、古墳探検のハイライトへ出発!

古墳の上に登って石を探す



石を見つけてみよう

主の眠る場所

古墳とはお墓なのですから、その主が葬られているはず。では、いったいどこに葬られているのでしょうか。主の眠る場所は、入口が埋められたり、ふさがれたりしています。たとえ墓穴が見つかったとしても、多くの古墳に使われ

ている木製の棺は、永い年月のあいだに朽ち果ててしまい、見る事ができません。いま見ることが出来るのは、石で造られた棺や、それを入れる石積み部屋だけ。主の眠る場所を見つける「コツ」は石を見つけることなのです。



島根では珍しい長持形石棺。古墳の上に大きな石があり、文様が刻まれている。(松江市古曾志町・丹花庵古墳)



古墳時代は三〇〇年以上も続いたため、時期によって変化が見られます。主を入れる棺と棺を入れる部屋(室)も時期や、あるいは身分によって違いが見られます。

タテ穴の墓とヨコ穴の墓

古墳時代のはじめから造られたタテ穴の墓



安養寺1号墳をモデルに復元された「タテ穴の墓」(仁摩町サンドミュージアム内)

墳丘の上にタテ穴を掘り、棺を納めるという埋葬法は、古墳時代より以前の弥生時代にすでに見られます。また古墳時代の初めころは棺を埋めたあと、その上でお祭りを行った形跡が見られ、これも弥生時代と共通しています。石で造られた棺にはさまざまなものがありますが、いちばん多いのが板状に割った石で造られた、箱形の石棺です。凝灰岩などのやわらかい石を丁寧に加工して造られた舟形石棺や、長持形石棺は非常にまれです。また木棺を納める石積み部屋である竪穴式石室は、初期の大きな古墳によく見られますが、ほとんどの古墳は棺を直接墓穴に入れていきます。

古墳時代終りに造られたヨコ穴の墓



安養寺2号墳をモデルに復元された「ヨコ穴の墓」(仁摩町サンドミュージアム内)

古墳時代も終りに近づく六世紀ころ、古墳に一大変化が訪れます。石を積み上げて造る「横穴式石室」と、山の斜面を直接掘り込んで造る「横穴墓」の登場がそれです。ヨコ穴の墓には棺や遺体を入れる部屋や、外から部屋へ通じるトンネルを備えています。この変化はたんに入れ物の形が変わったというだけでなく、死後の世界に対する人びとの考え方が大きく変わったことを意味しています。両者の関係は一五ページで紹介しますが、県内の古墳でよく知られるものは、この二つが圧倒的な割合を占めています。理由としては、横穴墓は非常に数が多く、横穴式石室は墳丘の土が流れてもそのまま残ることが多いこと、なによりもその石の大きさが目立ち、発見しやすい点にあるでしょう。